

## ★主催者のあいさつ

(司会:川崎 敏明さん)

「主催者のあいさつ」は「01開催までの経緯」と同じなので省略させていただきます。

それでは、具体的に当日は、どういう状況にあったか。あるいはどういう思いをもったかというところを順に語っていただきたいと思います。自己紹介も兼ねてよろしくお願いします。

まず、元日の能登半島地震の青山彩光苑の様子、職員の野岸さん、よろしくお願いします。

(職員 野岸さん)

当日の勤務者の中には、私は含まれていませんでしたが、勤務者から聞いた状況を簡単ではありますがお伝えします。年末年始の休日体制ということで私の所属する棟の職員数は、16時の時点では3名、16時勤務終了の職員を含めても5名という少数で利用者約40名の安否確認や建物や居室内の危険個所の把握、利用者全員の屋外避難について対応しなくてはいけないということでした。

まず、最初の地震があっても、落ち着く間もなく大きな地震が立て続けにおこる状況でしたので避難誘導のタイミングが難しいなか、とにかく全員を屋外に避難させるため必死で動き回っていたとのこと。ベッドごと移動した方もいますが、防寒対策のため衣類・毛布や布団も持ち出して掛けてあげていましたが時間が経つにつれ身体が冷えてきて我慢できなくなる方も多くいました。徐々に応援の職員が少ないながらも駆けつけてくれましたが、何度も続く揺れのなか不安な気持ちで過ごしておられました。余震が続く中、一旦大きな揺れが落ち着いたであろうということで、18時頃に、皆さん建物の中に入ってくださいました。

ほとんどの部屋の中はいろいろなものが散乱していたことや、今後の避難の為、広い共有スペースに皆さん集まっていたいて、ベッドもホールに移動して過ごしていただきました。夕食については、通常の食事はとても提供できる状況ではなく